



# サンショウの優良苗作り

## ▲ サンショウの苗作りに取り組んでいます



サンショウ苗と実サンショウ

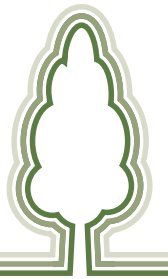
サンショウはミカン科の落葉性低木で、特用林産物として食用や薬用に広く利用されています。岐阜県高山市（旧上宝村）では、実サンショウの栽培が盛んに行われており、平成 17 年度には「高原山椒（タカハラサンショウ）」として飛騨・美濃伝統野菜に認証されました。また、この地域では 5～6 年前からサンショウ苗木の枯死が頻発し、枯れの原因究明と効率の良い苗木生産方法の確立が要望されていました。



接ぎ穂が枯れた接ぎ木苗

## ▲ サンショウ苗を作るには？

サンショウの増殖には、接ぎ木、挿し木等が考えられます。接ぎ木は、旧上宝村で古くから用いられていますが、接ぎ木を成功させるには技術的な経験と台木の育成が必要です。また、この地域では、冬から春先にかけて気温変化が激しく、この気候に接ぎ木苗が弱いことが分かっています。一方、挿し木に関して、サンショウの成木は分枝数が多く、挿し木を行うのに十分な数の穂木を確保することができます。挿し木は、接ぎ木と同じく親株と実の収量や品質に関して同じ形質を有している苗の生産ができます。しかし、栽培者の方々が過去に挿し木を試されましたが、サンショウの挿し木はうまくいっていませんでした。そこで、挿し木は条件が確立されれば誰もが使用できる比較的簡易な方法であることから、接ぎ木に代わる効率的な優良苗木生産条件の確立を目指して、挿し木試験を行いました。



## 誰にでも使いやすい苗木生産を目指して

挿し木に使用する枝は、6月末にサンショウ成木から実サンショウ栽培に影響が少なそうな部分の当年枝を使用しました。試験は当研究所の温室と苗畑を用いて、遮光と発根剤処理方法の影響について検討を行いました。遮光条件は、遮光率50%の寒冷紗を二枚重ねにして、全面を覆う条件（遮光全面）と西側半面だけ覆い午前中だけ太陽光が差し込む条件（遮光半面）および比較対照として遮光がない条件を作りました。発根剤処理については、市販の発根剤（オキシベロン）を用いて、茎の下部を3時間漬ける処理（浸漬処理）とスプレーで葉面だけにかける処理（葉面処理）と比較対照として水で処理を行いました。その結果、遮光を行うことで温室よりも苗畑で発根した個体が多く得られました。発根率が高かったのは、苗畑において半面遮光した浸漬処理区で発根率は85%、発根剤処理を行わず半面遮光だけでも73%の発根率でした。一方、無遮光では、発根率は0~7%でした。一般的には、発根剤処理を行い、湿度が高めに維持される温室のような条件において挿し木が成功しやすい植物が多いのですが、今回の試験では温室よりも苗畑で、適度な遮光を行うことで発根個体が多くなりました。



発根率への遮光と発根剤処理の影響

		遮光条件		
		無	半面	全面
発根剤処理	水処理	0%	73%	60%
	葉面処理	0%	23%	70%
	浸漬処理	7%	85%	29%

